

行事予定

- 九月二十三日(水) 秋季彼岸会
- 九月二十九日(火) ～十月一日(木)
全国奉詠大会 (於 札幌)
- 十月十七日(土) 第十二回 天満敦子
バイオリンコンサート
- 十月十八日(日) 能楽入門講座
- 十月十九日(月) ～十月二十二日(木)
第四回西国観音巡礼
- 十二月中旬 龍雲寺子ども会餅つき大会
- 十二月三十一日(木) 除夜の鐘
- 一月 七日(木) 大般若会

秋季彼岸会法要

平成二十七年九月二十三日(水・祝)
於・龍雲寺本堂
御詠歌奉詠
正午
午後十二時四十五分～法話(本派布教師)
午後一時 三十分～法要
※おはぎとお漬物を用意しています。
どうぞお参り下さい。申込不要。



◆第十二回 天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 十月十七日(土) 午後三時～
会費 三千五百円(当日集金)
会場 龍雲寺本堂(椅子席)
三時から整理券配布
お申し込みはFAX/電話・お葉書で。定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。

編集後記

皆様少しずつ秋の気配を感じられて来ましたが、いかがお過ごしですか? 龍雲寺盆踊りも5千人以上来られて盛況でした。○急に涼しくなって猛暑のお疲れが出ません様にと思っています。○8月15日の第10回妙心寺と五山送り火の旅は24人の参加で、お精霊送り、団体参拝、写仏、お写経、匂い袋や手捻りの陶器作りの講習会を涼しい花園会館で涼しい川床で焼き焼き、五山の送り火の日は花園会館の屋上で拝めました。阿じろさんの蓮の葉に包まれた蓮ご飯などの精進料理で皆様喜んでました。○9月1日から第9次四国八十八ヶ所巡拝に來ています。○御詠歌は、全国大会が9月末に札幌で開催されるので大会に参加して翌日は観光旅行に。○私が可愛がっている赤い金魚達は餌をあげると藻の上に乗っかって餌を食べています。動画配信したい位です。メダカもいます。○蚊の発生に気を使っています。10円玉をネットに入れて水の中に何年か前から入れてあります。最近テレビでも10円玉を入れると銅の錆で蚊の発生を防げると行っていました。殺虫剤は体に良くないし10円玉を洗えば又、使えると思います。○お彼岸会には、おはぎを作って、きゅうりのぬか漬も220本、早朝に漬けてお待ちしています。○御詠歌も新曲を入れていきますので是非聞いて下さい。○今秋は、嬉しい事があり、その準備に追われています。○皆様もお体をご自愛下さい。山内一同おかげさまで元気です。お元気で。要子

臨濟宗妙心寺派

龍雲寺 花園会報

二〇一五年 秋季彼岸号

監修／細川 晋輔

編集／細川 要子

〒一五四〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三三三八一

TEL〇三三三四二一〇二三八
FAX〇三三三四一八一八九六三

野沢龍雲寺 検索

ご挨拶

新命住職 細川 晋輔

龍雲寺の盆踊りも無事に終わり、野沢稻荷神社のお祭りに行ってピンゴをして、御神輿をお寺にお迎えすると、次第に涼しくなってきたように思えます。

先日、野沢稻荷神社の大祭をお務めになった松陰神社の宮司様は、「神様は、何もお祭りをして欲しいとは一言もおっしゃらない。おっしゃらないけど、私たちが自発的にお祭りをして、自ら神様にお参りするところが大切」とご挨拶されているのを聞いて、胸にせまるものがありました。

秋分の日は、「国民の祝日に関する法律」によると、「先祖を敬い、故人を偲ぶ日」として国民の祝日に制定されているとのこと。この秋分の日に執り行う秋の彼岸会は、その想いを大切に行いたいと考えています。

「到彼岸」という生死の河を渡って到達する理想・悟りの世界をめざすための、この「彼岸」という行事に、ご先祖さまを敬い、亡くなった方を偲ぶという行為はピンとこないかもしれません。しかし、私たち自身の力のみで向こう岸に渡るのとは大変なことです。そんな

時に、自分自身を支えてくれるものは何か? やはり亡くなった方から、教わったことがたくさんあることに気づくはずですよ。

いま死んだ どこにもいかぬ ここにおる
たずねはするな ものは言わぬぞ

大徳寺の一休禅師の作として伝えられている歌です。亡くなった人はいえない姿で生きている私たちの胸の中にいるのです。私が喜べば、故人も喜び、私が悲しめば、故人も悲しむ。生きた人が救われれば、死んだ人も救われる。「亡くなった人を、愛して尊敬するならば、私自身を愛して尊敬しなさい。そのことが何より、早くなくなつた方への供養になる」という仏教の教えは、間違いなく彼岸への近道になるはずですよ。

亡くなられた方は、自分から「お参りして欲しい。お供物が欲しい」とはいいません。けれども、私たちが自発的に心を込めて、お仏壇のお位牌やお墓、故人の好きだった湯飲み茶碗や盆栽に、亡くなった方を偲ぶことが大切なのではないでしょうか。そしてこの秋のお彼岸が、故人から頂いた教えをかみしめる良い機会になれば、きっと胸の中で喜んでくださるはずですよ。

龍雲寺のお弟子さんの島田大拙君よりの文章です。彼は妙心寺で私の五年後輩の修行僧でしたが、年齢は私と同じ歳になります。超難関校である灘高校を卒業した、英語が堪能な好青年でした。今回、道場からお暇をいただき、一時龍雲寺に帰山いたしました。現在も龍雲寺の弟子として、大本山妙心寺の専門道場で一番修行の長い雲水として頑張っています。(晋輔)

ごあいさつ

島田大拙

皆様、初めまして。龍雲寺学徒、島田大拙と申します。この場をお借りして、私の出家の因縁と現在に到るまでを簡単に話させて頂きたいと思っております。

私の実家は、父はサラリーマン、母は専業主婦の一般的な家庭です。私自身はと申しますと、中学入学、高校卒業、一年の浪人を経て無事大学に入りましたものの、五年間のモラトリアムを楽しんだ後に中退、在学中にアルバイトとしてお世話になった予備校に何とか就職させて頂くという人生を歩んで参りました。しかしながら、消去法的に選択した道であったという人生を振り返る仕事を一生続けても良いのだろうか、自分の生き方に誇りをもてるのか、この大疑問は拭えず、遂に気持ち爆発。二十六歳のある日、後先考える事なく仕事を辞めました。折しもその日の夜、私が退職した事を知る由もない高校時代の恩師から手紙を頂きました。「お坊さんにならないか」と。ある意味人生に絶望し、生きる指針を見失っていた私にとって、この言葉は正に天からの啓示そのものであり、眼前に光明が差し、世界が広がりました。「はい、お坊さんになります」と即答しました。

それから無我夢中でした。臨済宗の檀信徒でもあった恩師の勧めで花園大学に社会人入学し、少しでも多くの仏教、特に禅学の知識を取り入れ、坐禅会にも積極的に参加し、沢山の僧侶の方とお話しさせて頂きました。この間に学び、体験した事は今の私の財産です。さて、二年間の学生生活も終わりを迎え、さあいよいよ出家して道場で修行するぞ、と決意したものの、一つ問題がありました。私が在家であることです。修行道場に掛塔する為には自分を保証してくる師匠が必要であり、家が寺ならば父親等に師匠になって貰えば良いのですが、私の場合はそうもいきません。途方に暮れている時に助けてくださったのが、私と同じ年に入学し、非常に良く面倒を見て下さった龍雲寺の徒弟でもある僧侶の方でした。彼のおかげで龍雲寺さんにお会いする事が出来、師匠になって頂きました。そして、遂に念願の出家を果たし、かねてより修行するならここより他はないと決めていた、方丈さん、新命さんと同じ妙心僧堂に掛塔致しました。道場の修行は、自分が想像していた以上に遙かに辛く、大変厳しいものでした。滝に打たれた方がマシだ、あのまま仕事を続けていた方が良かった、と何度も挫けそうになりましたが、私が掛塔した時には既に評席(責任者)

募集中

詳しくは龍雲寺まで

お早めにお申し込み下さい。

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

九月 十四日(月)・十月 十三日(火)
十一月 十七日(火)・十二月 二十五日(金)
毎週木曜日二回自主練習

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半〜八時半(六時開門)
会費 無料
坐禅用のイスもご用意しています。

※初参加の方は六時四十分より説明があります。

◆写経会(申込不要)

毎月第二土曜日 一時〜四時
(但し、七月、八月はお休み)
納経料は 一卷五〇〇円(龍雲寺に納経)
来られない方は、お写経をお渡しいたしますの
でご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。
イス席もご用意しています。

であった新命さんには、時には厳しく、時には面白く励まされ、何とか今迄修行を続けることが出来ています。妙心僧堂に掛塔して気づけば早八年、今は当時の方丈さんや新命さんと同じ評席の立場で自分の修行と共に後輩の指導に携わっております。いつまで僧堂に居られるかはわかりませんが、お坊さんになると心に決めた時に抱いた初発心を忘れる事なく、僧侶として、禅僧として生きる自分に誇りを持って修行を続けていく所存です。龍雲寺学徒として恥じる事なき様、専一に努めますので、皆様、今後ともどうぞ宜敷くお願い致します。

龍雲寺 能楽入門講座

〜山姥からひもとく能の世界〜

「二洞空しき谷の声、梢に響く山彦の、無声音を聞く便りとなり、声に響かぬ何もがな」

謡曲「山姥」の一説です。臨済宗の中興の祖・白隠慧鶴禅師の「隻手の声」に大きな影響を与えたといわれる一説です。「両手を叩けばパチン」と音が鳴るが、片手の音を聞いてみよ」という禅問答の代表的な一問で、修行僧たちの最初の難問とされているものです。修行僧にとって、この「無声音」が聞こえるようになると、片目が開き、禅の修行がはじまるというのです。

龍雲寺の書生の加藤吉光君の叔父にあたる親世流能楽師・加藤眞悟先生をお招きして、能楽の世界を体験して頂きます。加藤先生は「能は舞う。踊りとは絶対に言わない。舞は無である。」とっしゃいます。また、「能は詩(歌舞伎は小説)であり、説明が少くない。だからこそ、想像して見る事が大事である。」とのこと。ハコビが歩行禅とおっしゃるよう

に、「禪」との接点も楽しみます。当日は、先生に実際に舞っていただく時間も、皆様に体験していただくことも考えています。何と云っても、閑栖和尚(父)の熱意で開催される講座ですので、ぜひ皆様にもお越しいただければ幸いです。会費は無料、龍雲寺にて予約を受け付けておりますので、ご連絡お待ちしております。



◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

A (一五〇×一五〇) 永代使用料二二五万円
B (一五〇×一四〇) 永代使用料一四万円
A Bとも納骨棺、塔婆立、拜石等の外構工事費を含みます。

◆納骨堂(お遺骨一時預り 無料・期間五年)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があとて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆龍雲寺てらこや子ども論語塾

全国各地で定例講座をされている安岡定子先生をお招きしての論語の素読教室です。終わってからの遊びも時間も大好評です。

【日時】九月 六日(日)・十月 四日(日)・十一月 一日(日)・十二月 六日(日)・一月十七日(日)・二月二十一日(日)
午後二時半から

【参加費】大人千円、子ども五百円

(家庭料金千円)

申し込み、お問い合わせはお寺まで

◆龍雲寺ダレマトーク(法話会)

【日時】九月 二十六日(土)

午後二時半から四時半まで(開場 午後二時)

【講師】妙心寺塔頭 退蔵院 松山大耕師

【次回】十一月 七日(土)

国泰寺派 全生庵 平井正修師

【場所】龍雲寺本堂

【参加費】無料

※要予約(東京禅センター)

申込みは、お名前・お電話番号・人数を明記の上、東京禅センターまでFAXでいただけると助かります。

★東京禅センター TEL 〇三(五七七九)三八〇〇
FAX 〇三(五七七九)三八〇一

◆龍雲寺能楽入門講座

【日時】十月 十八日(日)

午後三時から四時半まで

【講師】加藤眞悟先生

【場所】龍雲寺本堂

【参加費】無料

※要予約



○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かつぱれ・ヨーガ等があります。